

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

1年・道徳

時数等

3

目標・人権教育のねらい

いじめ防止・早期発見に必要な知識や取組を知ったり、いじめを発見したときの対応方法を身に付けたりすることをおして、いじめを許さない気持ちを高める。

実施した内容

①いじめに気づいたとき ②SNSを読んで、SOS!! ③いじめを生まない学校づくり
※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。

工夫した点

いじめに関わる学習を進める際、「いじめ問題は、教師の生徒観や指導のあり方が問われる問題である」「どの子どもにも、どの学校でも起こり得るものである」ことを十分認識することを大切に取り組んだ。教育的に不利な環境のもとにある子どもについて、学級ごとにレポートを作成しながら子どもの理解を深めた。また、補助資料として、「三重県いじめ防止条例」を活用した。

他教科との
関連

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0%（+3.9） ・価値・態度的側面：76.8%→82.1%（+5.4）
・技能的側面：78.9%→82.6%（+3.7）

取組の前後に実施した「人権アンケート」（*三重県調査票）では、「解決する問題として現在、存在していることを知っていますか」の問いにおいて肯定的な回答は〔74%⇒82%〕であった。また、「問題の解決には自分も関わりがあると思いますか」の問いにおいて肯定的な回答は〔61%⇒79%〕となった。2学期以降、学級・学年内での人間関係上のトラブルが減少傾向になっている。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等3年・
総合的な学習の時間

時数等

3

目標・人権教育のねらい

固定的な性別役割分担意識の影響により個性や能力を発揮しにくい状況が生じていることに気づき、男女共同参画社会の実現につながる姿勢を身に付ける。

実施した内容

①女性参政権獲得の歴史から考えよう ②日本は男女平等？ ③誰もが働きやすくするために
※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。

工夫した点

LGBTQ等の当事者の人権を保障するうえでは、男女の性のあり方を二分するかのような捉え方は課題となる。しかし、日本の歴史を背景とする中で、女性の自己実現が阻まれてきた現状を考えると、女性という枠組みを人権問題として位置づける必要性がある。こうした認識のもとで、指導に当たっては、男性・女性という表現を用いて取り組んだ。

他教科との
関連

・社会〔歴史的分野〕〔公民的分野〕 ・道徳〔社会参画、公共の精神〕

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0%（+3.9） ・価値・態度的側面：76.8%→82.1%（+5.4）
・技能的側面：78.9%→82.6%（+3.7）
取組の前後に実施した「人権アンケート」（*三重県調査票）では、「解決する問題として現在、存在していることを知っていますか」の問いにおいて肯定的な回答は〔82%⇒93%〕であった。また、「問題の解決には自分も関わりがあると思いますか」の問いにおいて肯定的な回答は〔82%⇒89%〕となった。3年生では、他者の特性や気持ちを大切にしたい行動がとれる生徒が増えている。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等1年・
総合的な学習の時間

時数等

2

目標・人権教育のねらい

高齢者を多面的にとらえる視点を持つとともに、認知症についての理解を深め、高齢社会の一員として生きていくための知識と態度を身に付ける。

実施した内容

①高齢社会って何？ ②認知症について知ろう
 ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。

工夫した点

高齢社会とは、総人口に占める高齢者の割合が高い社会のことで、一般には、65歳以上の人口が総人口の14%を超えた社会をいう。本校のある紀北町は超高齢社会となっている現状や家族等身近な人の中には認知症の患者もいることを踏まえ学習を進めた。

他教科との
関連

・社会〔公民的分野〕 ・道徳〔家族愛、家庭生活の充実〕

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0%（+3.9） ・価値・態度的側面：76.8%→82.1%（+5.4）
 ・技能的側面：78.9%→82.6%（+3.7）
 自身が暮らす紀北町の高齢社会の状況を理解し、多くの生徒が、高齢者の人権保障が社会問題であることに気づくことができた。また、認知症患者やその家族の生きづらさを知り、すべての人が暮らしやすい社会をつくることの重要性に気づいた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

2年・道徳

時数等

1

目標・人権教育のねらい

「自立」の捉え方についての認識を深めるとともに、障がい者が地域社会で暮らすことを「あたりまえ」にすることの大切さを理解する。

実施した内容

「ともに生きるために」というテーマで、教師の体験した、施設で暮らす人々との出会いや交流、共にボランティアに参加した中学生のエピソードをおりませ、共生社会の実現や社会的障壁をなくすための工夫等について学習を進めた。

工夫した点

障がいがある人とない人が共に暮らしていくためには、自然な関わりの中で理解し合うことが大切であることや障がい者の社会参画が妨げられている現実気づけるよう、生徒にとって身近な存在である指導者の体験談を多く取り入れて取り組んだ。

他教科との
関連

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0% (+3.9) ・価値・態度的側面：76.8%→82.1% (+5.4)
 ・技能的側面：78.9%→82.6% (+3.7)

取組の前後に実施した「人権アンケート」(*三重県調査票)では、「解決する問題として現在、存在していることを知っていますか」の問いにおいて肯定的な回答は〔77%⇒100%〕であった。また、「問題の解決には自分も関わりがあると思いますか」の問いにおいて肯定的な回答は〔68%⇒80%〕となった。校内では、町が主催する障がいのある人との交流等のボランティアに積極的に参加する生徒が増えている。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等1、2、3年・
総合的な学習の時間

時数等

5～6

目標・人権教育のねらい

- ・ 部落差別の解消をめざして展開してきた取組やその意義を理解するとともに、部落差別に関わる学習を進める必要性に気づく。
- ・ 差別の中、たくましく立ち上がった人々の姿から、自分の生き方や仲間との関係を見つめ直し、部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくそうとする意欲を高める。

実施した内容

- 1年：①全国水平社を立ち上げるまでの経緯 ②水平社宣言に込められた思い
③差別のない社会を実現するために大切なこと
- 2年：①文字を学ぶこと ②差別をなくす生き方 ③「つながる」ということ
- 3年：職業選択の自由の保障～「統一応募用紙」制定の取組～

工夫した点

本校においては、同和問題を扱った学習の充実に課題が見られていたため、すべての学年の人権教育の取組において「部落問題学習」を取り入れた実践を進めた。また、全学年の取組内容を公開し合い、教師の人権教育に関する指導技術の向上や人権教育の質の改善をめざした。

他教科との
関連

- ・ 社会〔公民的分野〕
- ・ 道徳〔向上心、個性の伸長、遵法精神、公德心〕

事業成果

- ・ 知識的側面：81.1%→85.0% (+3.9)
 - ・ 価値・態度的側面：76.8%→82.1% (+5.4)
 - ・ 技能的側面：78.9%→82.6% (+3.7)
- 取組の前後に実施した「人権アンケート」（*三重県調査票）では、「解決する問題として現在、存在していることを知っていますか」の問いにおいて肯定的な回答は1年生〔17%⇒64%〕2年生〔43%⇒98%〕、3年生〔86%⇒93%〕であった。また、「問題の解決には自分も関わりがあると思いますか」の問いにおいて肯定的な回答は1年生〔21%⇒50%〕、2年生〔46%⇒73%〕、3年生〔79%⇒82%〕となった。また、研修を含めた全体的な取組を通じて、人権問題に対する意識が高まったと回答した教職員92%、主体性や実践力が高まったについては83%となった。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

2年・社会〔地理的分野〕
3年・社会〔公民的分野〕

時数等

1

目標・人権教育のねらい

アイヌの文化や歴史について知ることを通して、アイヌに対する関心を高めるとともに、アイヌの人々の権利についての理解を深める。

実施した内容

2年生：アイヌの文化と歴史
3年生：アイヌの人々の権利回復について

工夫した点

補助資料として、三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用して学習を進めた。

他教科との
関連

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0%（+3.9） ・価値・態度的側面：76.8%→82.1%（+5.4）
・技能的側面：78.9%→82.6%（+3.7）
北海道の地名で、苫小牧や知床などはアイヌ語に由来していること等を学んでアイヌの文化に触れるとともに、アイヌの人々が奪われてきた歴史を子どもたちが学ぶ機会となった。また、権利回復の経緯を知ることによって、アイヌの人々の権利について理解を深めることにつながった。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等2年・
総合的な学習の時間

時数等

2～3

目標・人権教育のねらい

外国につながるのある人が安心して生活できるようにするために、環境を整えたり共に活動したりする意欲やコミュニケーション技能を高める。

実施した内容

①みんなが住みよいまちづくり（案内編） ②みんなが住みよいまちづくり（防災編）
③みんなが住みよいまちづくり（活動編）
※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。

工夫した点

本校は、数十年以内の発生確率が高まる南海トラフ大地震において、甚大な被害が想定されている地域にある。そのため、日頃から避難訓練や防災学習に力を入れ取り組んできている。特に、みんなが住みよいまちづくり（防災編）では、外国につながるのある人が安心して避難できるようにするためにはどのような環境を整える必要があるかなど、日々の防災に関する取組と関連づけながら広く考えられるよう取り組んだ。

他教科との
関連

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0%（+3.9） ・価値・態度的側面：76.8%→82.1%（+5.4）
・技能的側面：78.9%→82.6%（+3.7）
取組の前後に実施した「人権アンケート」（*三重県調査票）では、「解決する問題として現在、存在していることを知っていますか」の問いにおいて肯定的な回答は〔68%⇒94%〕であった。また、「問題の解決には自分も関わりがあると思いますか」の問いにおいて肯定的な回答は〔60%⇒79%〕となった。在籍する生徒の中には、外国につながる生徒も数名おり、より身近な問題として取り組むことができた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

H I V 感染者等

対象学年・
取り扱った教科等

3年・保健体育

時数等

1

目標・人権教育のねらい

さまざまな病気や、その患者が置かれている状況等を正しく理解するとともに、ともに支え合う社会をつくっていかうとする意欲を高める。

実施した内容

正しく知ろう！ H I V ・エイズ
※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。

工夫した点

正しい知識を持つことが感染から自分や他人を守ることにつながること、無知が偏見や差別を生むことに気づくことができるよう、三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用して学習を進めた。

他教科との
関連

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0%（+3.9） ・価値・態度的側面：76.8%→82.1%（+5.4）
・技能的側面：78.9%→82.6%（+3.7）
生徒は、「基本的に、日常生活で感染する確率が極めて低いのであれば、感染者を不要に避けなくて良い」や「正しい知識を持てば感染を予防し、自分も他人も守れるようになる」といった考えを持つことができた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等3年・
社会〔公民的分野〕

時数等

1

目標・人権教育のねらい

さまざまな病気や、その患者が置かれている状況等を正しく理解するとともに、ともに支え合う社会をつくっていかうとする意欲を高める。

実施した内容

ハンセン病に係わる歴史から学ぶ
 ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。

工夫した点

社会（公民的分野）の「人権と共生社会」の学習で、部落問題をはじめとする人権問題の具体的な事例を取り上げ日本国憲法や法律による基本的人権の保障を理解させるとともに、法は自分や他人の人権を守り、人権侵害における救済のためのよりどころであることに気づけるよう、三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を補助的に活用して取り組んだ。

他教科との
関連

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0%（+3.9） ・価値・態度的側面：76.8%→82.1%（+5.4）
 ・技能的側面：78.9%→82.6%（+3.7）

ハンセン病に関わる歴史的経緯は、既習内容である部落問題学習とも重なりを持つと感じた生徒もおり、ハンセン病もまた、偏見や差別をなくしていくためには、正しい知識が必要だということに気づく様子が見られた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

刑を終えて出所した人

対象学年・
取り扱った教科等

3年・道徳

時数等

1

目標・人権教育のねらい

刑を終えた人・保護観察中の人たちの社会復帰を支えるためには、周囲が偏見や差別意識を持たずに関わることが必要であることを理解する。

実施した内容

①ある少年の詩 ②僕を変えてくれたもの
※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。

工夫した点

道徳〔相互理解、寛容〕の題材として、刑を終えた人の社会復帰を支えることに焦点を当てた学習に取り組むため、三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用して取り組んだ。

他教科との
関連

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0%（+3.9） ・価値・態度的側面：76.8%→82.1%（+5.4）
・技能的側面：78.9%→82.6%（+3.7）
刑を終えた人々が立ち直れるかどうかは、周囲の人々の関わり方や接し方も大きく影響することに気づく生徒が多く、周囲の人々に対する自分のこれまでの接し方等を振り返る様子が見られた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

犯罪被害者等

対象学年・
取り扱った教科等

2年・道徳

時数等

1

目標・人権教育のねらい

犯罪被害者等は、被害後に生ずるさまざまな問題によって苦しめられることや、個々に応じた支援・配慮は必要であることを理解する。

実施した内容

①犯罪被害者等の気持ち ②犯罪被害者等に必要な支援・配慮
※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。

工夫した点

学校生活において、友人関係が上手くいかず仲たがいをしてしまう具体的な事例をあげながら、励ますつもりでかけた言葉でも、犯罪被害者等に精神的苦痛を与える可能性に気づき、言葉の受け止め方は一人ひとりちがうことを理解できるよう注意する。

他教科との
関連

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0%（+3.9） ・価値・態度的側面：76.8%→82.1%（+5.4）
・技能的側面：78.9%→82.6%（+3.7）
学習補助資料の活用により、生徒は、同じ言葉がけでも一人ひとりの受け止め方はさまざまに「傷つく人」もいれば「気分が落ち着き、楽になる」と真逆な感じ方となる場合もあることに気づくなど、支援や配慮の仕方は一人ひとりちがうことを学ぶことができた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

インターネットによる
人権侵害対象学年・
取り扱った教科等1、2年・
技術家庭〔技術分野〕

時数等

2

目標・人権教育のねらい

情報の特性を理解して、情報を有効かつ安全に利用できる技能を身に付ける。また、インターネットによる人権侵害の被害者にも加害者にもならないための知識を身に付ける。

実施した内容

「情報検索の便利な点と注意すべき点」「情報発信の便利な点と注意すべき点」「情報サービスの便利な点と注意すべき点」について具体的な事例をもとに学習を進めた。また、三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』から、情報に潜む危険①と②を用いて学習を進めた。

工夫した点

技術家庭科の技術分野（情報の技術）の学習に加え、全校生徒を対象としたネットモラルに関する講演会（スマホ・ケータイ安全教室）を実施して、インターネットによる人権侵害に関わる取組を進めた。

他教科との
関連

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0%（+3.9） ・価値・態度的側面：76.8%→82.1%（+5.4）
 ・技能的側面：78.9%→82.6%（+3.7）
 学習後、定期テストでは、人権侵害の被害者にも加害者にもならないためにはどうすれば良いかを考え記述する問題を出題したところ、「インターネット上の情報は鵜呑みにせず、身近なおとなに確認する」や「友だち等にメッセージを送る場合は、相手の気持ちをよく考えて、送る直前に何度も読み返すことが大事」といった解答が多く見られた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

北朝鮮当局による
拉致問題等対象学年・
取り扱った教科等3年・
総合的な学習の時間

時数等

2

目標・人権教育のねらい

拉致被害者家族の思いを知ったり、拉致は多くの権利を奪うことに気づいたりすることをおして、拉致問題についての関心を高める。

実施した内容

①ある拉致被害者家族の思い ②拉致問題と人権
 ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。

工夫した点

「北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ『めぐみ』短編版」を視聴して、生徒にわかりやすく問題の経緯を示した。横田めぐみさんの母が書いた文を読み、拉致被害者家族の「助け出したい」という思いや願いの強さが理解しやすいよう取り組んだ。

他教科との
関連

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0%（+3.9） ・価値・態度的側面：76.8%→82.1%（+5.4）
 ・技能的側面：78.9%→82.6%（+3.7）

学習をおして生徒は、拉致被害者の悲痛な思いを感じ取ることができた。また、めぐみさんが「自由・平等に生きる権利」や「安心して暮らす権利」等の権利を奪われ、家族も「家族と生活を送る権利」等を奪われ、今なお苦しんでいることを知り、人権を守ることの重要性を再確認した。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等

1、2年・保健体育

時数等

2

目標・人権教育のねらい

性のあり方は多様であること、LGBTQ等の当事者に対する人権侵害に気づく力や多様な性のあり方を認め合おうとする態度を身に付ける。

実施した内容

①性のあり方はいろいろ ②性のあり方の多様性を認め合うために
※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。

工夫した点

LGBTQ等の当事者の権利を守るための現在の社会の動きについて学びながら、LGBTQ等の当事者である子どもを不安にさせないよう学習を進めた。また、AさんBさんの手記を読み、考えを深められるよう取り組んだ。

他教科との
関連

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0%（+3.9） ・価値・態度的側面：76.8%→82.1%（+5.4）
・技能的側面：78.9%→82.6%（+3.7）
学習を通して生徒は、LGBTQ等の当事者の抱えている困難に気づくことができた。すべての人権問題に共通する、誰もが安心して過ごせる社会や環境の整備が必要なことを理解した。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

三重県

学校名

紀北町立紀北中学校

人権課題

その他（災害と人権）

対象学年・
取り扱った教科等1、2、3年・
総合的な学習の時間

時数等

1

目標・人権教育のねらい

災害発生時に生じる人権侵害について考えることをとおして災害によって被害を受けた人々への二次被害を防ごうとする態度を身に付ける。

実施した内容

①互いに配慮することは ②私たちが防風林になる
 ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。

工夫した点

南海トラフ大地震の発生時には甚大な被害が想定される地域にある本校では、全校での避難訓練に日常的に取り組むとともに、座学として、学年ごとにさまざまな防災学習を実施して知識や技能を高めている。こうした日々の活動を踏まえながら、災害発生時には人権侵害が生じることを理解し対処する力が身につくよう東日本大震災後の原子力発電所事故を例にしながら学びを深めた。

他教科との
関連

事業成果

・知識的側面：81.1%→85.0%（+3.9） ・価値・態度的側面：76.8%→82.1%（+5.4）
 ・技能的側面：78.9%→82.6%（+3.7）
 学習をとおして生徒は、「大災害発生時には、それに伴い人権侵害が生じやすいことを学ぶことができた。特に、東日本大震災の原子力発電所事故後には風評被害が起こったが、『被爆した人に近づくと放射能がうつる』と言われたなどの事例から、風評被害とは何かを知ることができた」など、学びを深めることができた。